NIE実践報告

1．タイトル：**新聞を身近なものに**

2．学校名

神奈川県立藤沢高等学校

3．実践者名（代表者名）

柴田樹男

4．学年

第3学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

時事問題（地歴科必修選択科目）　16人

6．単元（本時の学習課題）名

新聞を身近なものに

7．目標(狙い)

新聞とトコトンつきあってみる。そのことを通して、新聞を読むのが好きになるにしろ、嫌いになるにしろ、身近なものにする。

8．評価の視点

・新聞を読み、国自分が一番関心のあった新聞の記事を切り抜き分類し整理することができる。
・そのニュースがいかに自分に関係するかを考えることができる。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

前期：国内の諸問題について（２４時間）
後期：新聞を身近なものに（２０時間）

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①新聞の全体を読む実践（4時間）
②各面の特徴をつかむ実践（6時間）
③テーマに沿って記事を探す実践（6時間）
④「メディアリテラシー」を身につける実践（4時間）

（留意点）
・生徒がまんべんなく7紙を読む機会を作る。
・鋏、糊、マーカー等を用意させる。
・1時間で終了しなければ、次の時間も使えるように授業展開をゆっくりとする。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

普段新聞は興味のあるところしか読まなかった。そして、極まれにしか読まなかったけど、これから文を書くことが増えるので、いろんな言葉とか教養を身につけたいので、興味の薄い内容の記事も最近では読んでみようと思っている。

12．成果と課題

NIEの実践を行ってみて、「時事問題」選択した生徒の新聞に対する拒否反応はなくなったと思われる。そのことが一番の成果であると思う。しかし新聞を読むことが一過性のものに終わらないだろうかという不安がのこる。またNIEの活動を全校化出来なかったことが課題である。この課題を解消するためには、3学年を見通してカリキュラムを組む必要があり、NIEの活動を各教科が個別に担うのではなく、学校全体でNIEを推進出来る体制が不可欠である。ただし、金銭的な余裕がなければ出来ない話ではあるが。